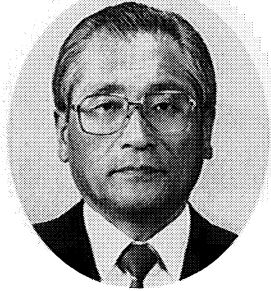


似て非なり



福島県小学校長会長

大河内 宏 通

その一、鶯やおおよしきりの巢に産卵して抱卵・育雛を委ねるといふ、ほととぎすや、かつこうなどは例外としても、大抵の動物の親子は深い愛情の絆で結ばれているように見える。子は親にまつわりついて甘え、親はそれにさりげなく、あるいはしっかりと応えて保護し、せっせと餌を与えたり哺乳をする。やがて、子は自立し親から離れて行く。このような光景を身近なところで目にする季節になると、よくわが人間界の親子の有様について考えさせられる。子は、独り立ちの心が芽生えたと、親から離れて行動したくなるのは自然の姿であろうが、親の利己心によって甘やかしてはいないだろうか。あるいは、子は何歳になっても事情によっては親に甘えたい事もあるが、そんな時冷たくあしらってはいいまいかと。親が甘やかすことと、子が甘えることとは同質ではないように思う。

その二、電車を待つホームに、ふわり舞おりようとしていたたんぽぽの種三つ四つ。こんな所におりるとは気の毒にと思っていたら、向側の上り電車が通過して行った。種は風圧に助けられて、また舞あがって行ったように見えた。同じ草本でも、耕された畑や鉢の中で栽培される野菜や花卉などと、道端や原野に自生する雑草などと呼ばれている野草とでは、その生きるたくましさに大きな違いを見ることが出来る。人の力で育てられるものと自ら育つものとの違いであろうか。

心豊かにたくましく生きる人間の育成を目指す教育の実践

〔著者紹介〕

大河内 宏 通・おおこうちひろみち

昭和 九年 田村郡二瀬村（現・郡山市）に生まれる

三十一年 福島大学文学部卒業